



薬系技官座談会 先輩若手 本音トーク

CROSS TALK

薬系技官を志望していた頃、気になっていたことや実際に働き始めて感じたことなど、若手と先輩とで本音を語り合いました。

ズバリ若手が聞いてみた！

官庁訪問で何を見ているの？

鶴川：薬系技官を志望している方にとって、官庁訪問でどこを見られているかはやっぱり気になる点かと思いますが、採用担当の方は受験者のどこを見ているのでしょうか？

中井：なぜ厚労省に入りたいのかとか、この政策についてどう思うとか、色々聞くけど、知識量は全然見てないですね。当たり前ですけど政策については我々の方がずっと詳しいに決まっていますし、無理して勉強して知識を披露する必要は全く無いと思います。それよりも、楽しく業務に取り組めるか、合う合わないは当然あると思うので、そこが大事かと思えます。

太田：むしろ知識を持っていないくても、どんどん吸収できる人がいいですよ。固定観念を持ってしまっている人、なかなか人の話を受け入れられない人は難しいかもしれないです。国家公務員は色々な人の意見を聞きながら調整していくのが仕事なので、真摯に人の話を聞けるということが大事かもしれないですね。

中井：知識はあってもいいけど、付け焼き刃的な知識だけでは、結局ぼろが出るからね。

大原：それよりもその人がずっと培ってきたもの、大学で何をやってきたのかもそうですけど、そういった点を重視しますよね。蓄積されたものはその人の人柄にも表れるかと思えます。

NAKAI Kiyohito

医薬局
医薬品審査管理課 課長
中井 清人

平成2年入省。研究振興業務やPMDAでの審査担当などを経て、平成22年より薬系人事を担当。その後は保険局で診療報酬改定や国立がん研究センターなどの勤務を経て、令和5年より現職。



太田：飾らずにありのままの自分を出してほしいです。

大原：どうすれば自分を出してくれるかなと思いつつ、色々話を振ります。あとは一日の最初と最後で違いがあるか、面接を繰り返す中でどう変わったかみたいところは見ますね。

吉岡：官庁訪問の中でどれだけ成長するかも見られているという話は聞いたことあります！

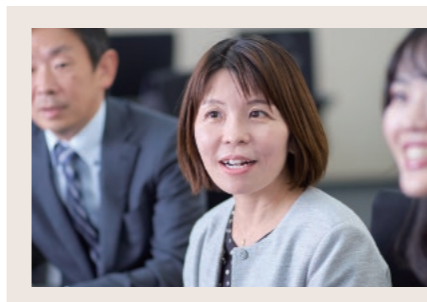
安齋：厚労省が第1希望かどうかで差をつけることってありますか？官庁訪問ではだいたい3つの省庁に回れるので、複数の省庁を回る人が多いですが、その点はいかがでしょうか？

中井：第1希望かどうかで評価に差をつけたことは無いですね。それが入省後の働き方や人事に影響することも全く無いです。むしろ厚労省1本に絞る必要は無く、機会があるなら他の職種や省庁も見回ってもらった方がいい経験になると思います。それで最終的に、自分のやりたいことと照らし合わせて、厚労省を選んでもらえればいいなと思います。

鶴川：他にどこの省庁を見ているかは官庁訪問でよく聞かれる気がします。

大原：それは話題作りの部分ももちろんありますけど、あなたの中で何が軸になってそれらの省庁を併願しているんですか、ということが気になって聞くことが多いです。理系の学生さんですと、だいたい似たような組み合わせの省庁を回っている方が多いですが、それでも志望理由やバックグラウンドなんかで違いが出てくるので、面白いですね。

太田：それは非常に参考になりますね。またその人が複数の省庁で迷っている場合は、迷っている理由をきっかけに、本当にやりたいことを掘り下げることがあります。迷っているなら迷っていると素直に言ってもらった方がいいですね。もちろん最終的には決めて欲しいですけど、迷っているから悪い評価をつける、ということは全く無いですし、無理して「第1志望です。」なんて言うのもお互いに得しないですから。皆さんは他の省庁と迷っていましたか？何が決め手で厚労省を選んだのでしょうか？



OTA Miki

医薬局
総務課 薬事企画官
太田 美紀

平成13年入省。化学物質の安全対策、食品の器具容器包装の基準策定等に携わり、その後、PMDA、人事院への出向、医薬安全対策課を経て、令和元年より薬系人事を担当。令和3年より現職。

吉岡：私の場合は、最初は厚労省一筋で臨んでいましたが、官庁訪問を進めていくうちに不安に思うこともあり、他の省庁と迷った時もありました。その時に、自分自身がやりたいことと厚労省でできることと方向性が合っているかどうか、当時の太田企画官にご相談させていただいており、今でも本当に感謝しています。どのような仕事ができるのかということも、もちろん重要ですが、どのような人と働けるかという職場の雰囲気も重要だと思います。これは官庁訪問の魅力でもあるので官庁訪問もぜひ楽しんで受けてほしいです。

太田：今こうして一緒に働けているのも、その時の選択があったからですよ。官庁訪問でのお話がお役に立てて良かったです。

実際の官庁訪問の印象は？

大原：逆に皆さんの官庁訪問に対する印象はどんな感じでしたか？

安齋：正直なところ、緊張しすぎてあまり記憶に残っていません。ただ、制度作りの最先端で働いている人と話しながら、ひたすら考えて自分の意見をブラッシュアップしていくのが楽し

かったですね。また、同じ部屋で待つ受験者と話ができただけのも良い刺激になりました。

吉岡：私の時は、面接というよりはコミュニケーションといった感じの方が強いな、という印象でした。逆にどういったことが決め手になるのでしょうか？

太田：結局、職場の雰囲気にあっているか、この人と一緒に働きたいか、みたいなフィーリングが大きいですね。それを知るためにもコミュニケーションがちゃんと取れるか、というのは大事ですね。

鶴川：私は民間企業の就活も一応してたのですが、民間の場合はどちらかというと面接官から一方的に質問される印象が強いのに対して、官庁訪問は面接官が自分の業務内容等を紹介しながらお互いに質問し合う、といった感じでした。そのため、常に身構えておく

必要も無く、素の自分を出しやすかったです。

中井：よくある話ですけど、官庁訪問ってとにかく拘束時間が長いんですよね。それから地方の方はわざわざ東京に出ないといけません。その辺りに不満はありませんでしたか。

鶴川：最近の薬系技官の官庁訪問は待ち時間は大分短いと思います。ネット上ではひたすら待たされるという話をよく目にしますが、薬系はそんなことはなく、テンポよく面接が進んで、定時くらいには帰れるかと思えます。

吉岡：私の時はコロナの影響で、面接はオンラインと対面の両方がありました。対面だけであれば、交通費や時間も膨大にかかるので、大変だったと思います。現在の官庁訪問は、対面とオンラインのどちらでも可能という方針になったので、以前と比べると遠方の方でも受けやすくなったと思います。

大原：官庁訪問のルールは人事院が各省庁の意見を踏まえながら決めていたのですが、民間の場合はどちらかというと面接官から一方的に質問される印象が強いのに対して、官庁訪問は面接官が自分の業務内容等を紹介しながらお互いに質問し合う、といった感じでした。そのため、常に身構えておく

OHHARA Taku

医薬局
総務課 薬局・販売制度企画室長
大原 拓

平成14年入省。医薬品の審査や食品監視・基準策定業務等に携わり、その後、外務省（在インドネシア日本国大使館）への出向や医療機器審査管理課を経て、令和3年より現職、薬系人事を担当。



column

官庁訪問では何をする？

官庁訪問においてほぼ必ず行われるのが、実際に働いている職員との面接になります。受験者の皆さんが実務に触れる貴重な機会でもあるので、ここで厚労省に対する印象や情報をアップデートする人も多いです。

どんな対策をした？

- ・採用パンフレットを隅から隅まで読み込んだ。
- ・各種説明会、OBOG訪問で情報を収集した。
- ・面接で得た知識を使ってグループディスカッションにて解決案を模索した。

若手に聞く！

実際に働き始めた感想は？

中井：厚労省に入省してみているかですか？

安齋：先ほども人の話を聞くのが大事という話がありましたが、国の役割は、自分たちがやりたい政策ではなく、業界からの要望であったり、都道府県や自治体からの要望であったり、それからもちろん国民からの要望であったり、色々な要望を聞きつつ、それぞれに対してちゃんと説明できるような政策を作ることだと思います。日々の業務の中で、それはすごく大変な一方、やりがいのあることだと実感しています。私はまだ1年目の係員なので全然ですが、そういった政策を作れる人、政策についてちゃんと説明をできる人になりたいというのは常に思っています。最終的に自分たちの業務の成果が、条文や通知というものとして国民の皆様が届くので、夢があると思います。

鵜川：とにかく業務の幅が広いと思います。私は今医薬局の企画法令係として、局内外の調整やとりまとめを主な業務としておりますが、毎日大量の案件が局内で動いているのを目の当たりにしているので、一口に薬系技官といっても、薬に留まらず色々な業務に携わることになるのだと日々感じています。また、私自身は各案件を直接担当することはほぼないのですが、担当としてはほぼないのですが、担当として色々な方と対峙して進めていくというのは面白そうだと思います。

吉岡：幅が広いというのは本当にその通りだと思います。私は6年制薬学部を卒業して、薬剤師がより活躍できる

YOSHIOKA Kie

大臣官房
国際課国際労働・協力室 主査
吉岡 希恵

令和3年入省。入省時は監視指導・麻薬対策課に配属され、GMP/QMSを担当。令和5年に大臣官房国際課に異動し、WTOや経済連携協定等に係る省内外の調整を主にやっている。



環境にしたいという思いで薬剤師施策に携わりたく厚労省に入省したのですが、1年目の配属先は監視指導・麻薬対策課で、監視指導行政に携わり、GMP 省令や QMS 省令等を勉強することになりました。学生の時には想像もしていなかったマニアックな分野でしたが、経験を増やすごとに面白さも増し、厚労省でこそ成し遂げられる業務だと実感しました。3年目には、大臣官房国際課に異動し、国際関係の業務に関わっているのですが、国際会議や交渉の場に立ち会うことができ、日本代表としての発言に関わることができています。このような業務は、厚労省でしかできない業務であることを凄く実感していますし、規模の大きい業務ではありませんが、楽しみながら働いています。

大原：吉岡さんはちょうど今年度が初めての異動でしたね。公務員ってだいたい2～3年で異動することが多いですが、それについては皆さんどう思いますか？

中井：数十年厚労省にいますとだんだん慣れてきますね。専門性を高めるとい意味では海外のように1つの部署に5年、10年いた方がいいのかもしれませんが。

太田：確かに政策というのは1年くら

いのできるようなものではないですから、自分が手掛けてきたものを、途中で手放さなくてはならないこともあります。そういう意味ではもう少し長くてもいいかなと思うことはあります。ただ一方で、頻繁に異動するという事は、それはそれでメリットはあって、色々経験してきたからこその視点を仕事に活かせるのは、この仕事の特徴だと思います。

中井：薬系技官の場合は、医薬品、医療機器とか、食品など、ある程度は関連した仕事に従事することになるので、以前の経験を活かす機会は多いかもしれないですね。専門性も高まってくると思います。

吉岡：私はまだ1度しか異動を経験していませんが、その感覚が少しわかります。全く異なる業務かと思っていましたが、以前の業務内容に関する知識を使う場面や、以前の業務内容と連携している部分があるため、薬系技官の魅力は異動を重ねて専門性を高めていけるということもあるのではないかと思います。全く関係ないと思っても、少しずつ繋がりが見えてくることもあり、そこに新しい発見と面白さがある気がします。

鵜川：複数の部署にまたがるような案件に取り組むときも、色々な部署を経験したことがある方の存在がとても頼りになると思います。縦割り行政と言われたりもしますが、横の連携が重要視されている中で、人脈が広い方、色々な知見を身に付けている方がいると、スムーズに連携が取れる気がします。

中井：経験を積むという意味では、若

手のうちから出張とか講演とか、外に行く経験を積んでほしいですね。やっぱり現場を見ると、デスクワークでは得られないものに触れられますし、色々な人との交流もできますから。

安齋：私もこの前実地研修に行きましたが、普段の業務では会うことのない全然違う分野の方と触れ合えたのが楽しかったです。

吉岡：最近は良くも悪くもオンラインで完結してしまうが増えてしまっていますが、対面でのやりとりの中で生まれる信頼関係もあると思います。デジタル技術が進んだ中でも、人と人との交流や経験を大事にして、日々成長していきたいです。

厚労省ですっと働いていくために大切なこと

吉岡：若手の時に想像していたキャリアパスと、実際のご自身のキャリアパスを比較してみて異なっていた点はあるでしょうか？

大原：難しい質問ですね。結局は人事がどう思って、どう上げていくかという話になるので、自分でこうありたいと強くこだわるものでもないです。毎年意向調査をやっていますが、私は色々な部署を経験したいと出しています。

太田：私自身も、入省した時はあんまり具体的に何をやりたいとかは考えずに入って、でもその時々部署の仕事が楽しくて働いていたらここまで来ていました。今でも私は明確にこれというのはあんまり持ってないです。

中井：結局、色々な仕事に楽しそうに取り組める人が、どこの部署に行っ

ANZAI Maya

医薬局
監視指導・麻薬対策課 係員
安齋 真弥

令和5年入省。監視指導・麻薬対策課でGMP/QMSの担当として、医薬品・医療機器等の品質確保対策を行っている。



も活躍していると思います。逆に今の若手の皆さんは、明確にキャリアパスを思い描いて厚労省を目指したんですか？

安齋：裁量の大きな仕事をしたい、出向もしつつそのために必要な知識や経験を付けたいと思っていました。自分の上司が仕事をさばく姿に憧れを覚え、入省後もその気持ちは強くなっています。ただ、具体的にこの分野の仕事がしたい！みたいな気持ちは薄いんです。

鵜川：官庁訪問のときは何をやりたくとかはある程度考えてはいましたが、入省してから色々な案件に触れているうちに、前より幅広い業務に興味を持ち始めてきて、どこでもいいかなという気持ちが芽生えてきてます。

吉岡：私もどこの課に異動してもその課の面白さがあるのではと思っており、明確な希望を持ってはいないですね。でも最近は明確な希望がある方が良いのかな、と考えたりしており、最近の悩みでもあります。キャリアパスを進めるうちに明確な希望を持って順番にそれを進めていくという方が良いのでしょうか？

太田：皆さん同じ悩みはあると思います。結局、どんな仕事もやってみると楽しいので、事務作業として済ませずに、全力で取り組んでもらいたいと思います。

安齋：今後、厚労省で長く働き続けて

いくために大切なことって何ですか？

中井：やっぱりプライベートを充実させることだと思います。しっかり休暇をとってオンオフのメリハリを付けるのは重要です。若手の皆さんはちゃんと休みは取れていますか？

鵜川：上司もすごく働きかけてくれて、休んだ分の仕事のフォローもしてくれるので、月一で必ずマンスリー休暇は取ってます。

大原：昔と比べて随分休みが取りやすい環境になったと思います。男性も育児を取得する人が増えてきましたし、時短勤務などもできるようになってきています。

安齋：ありがとうございます。私も仕事と休みのオンオフを付けつつ、これからも厚労省で頑張りたいと思います。

薬系技官を目指す方へのメッセージ

薬系技官に少しでも興味を持っていただけただけでしょうか？

薬系技官の業務は多岐にわたり、どんなバックグラウンドの人でも活躍できます！

是非一度説明会にお越しください！「生きる」を支える、そんな仕事を一緒にしてみませんか？



UKAWA Yuta

医薬局
総務課 係員
鵜川 佑太

令和4年入省。医薬局総務課の企画法令係として、局内外の調整を主な業務としてやっている。

